

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



連携医療NEWS

Vol.38 5月号

就任にあたってのご挨拶

病院長

大西 真



平成28年4月1日付で病院長を拝命致しました。私は昭和55年に大学を卒業し、35年余り、消化器内科医として診療、教育、研究を行って参りました。東大病院在籍時代は、約10年余り病院執行部の一員として病院改革にも携わり、2年前から副院長として当センター病院で勤務し、総務、財務・経営、教育・研修、研究等を担当してきましたが、これからは病院長として職務を遂行して参ります。

当院は、これまで総合医療を基盤とする高度急性期病院として最善の医療の提供に努めて参りました。国際感染症対応やトラベルクリニック、糖尿病診療、エイズ治療、救急医療等に大きな特色がありますが、全ての診療分野間で専門医及びスタッフが連携を取り合う診療体制が整えております。

多くの合併症を持つ患者さんやご高齢の患者さんの外科手術、複雑な内科疾患への対応、原因不明な疾患等に対処する総合診療、多くの身体疾患を合併した精神科患者さんの診療等も、当院が得意としております。周産期や母子医療への対応、不妊症治療等も充実しており、臨床ゲノム診療科外来では遺伝カウンセリングを行っております。

内容

- ・就任にあたってのご挨拶 1
- ・新任あいさつ 2
- ・連携登録医のご紹介 3
旬の味覚
- ・医師人事異動 4

このように総合的な診療体制を基盤とした高度医療を展開致しておりますので、様々な疾患や症状の患者さんに幅広く対応致しますので、お気軽にご紹介、ご相談下さい。

また、国際診療部を設置し、外国人患者診療の円滑化を進めており、都内の病院としては初めて、外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)の認証を受けました。さらには、国際医療拠点病院となるべく、体制整備を進めて参ります。

当院は日本で初めて人間ドックを開院致しましたが、長年の実績と経験に基づき、全面的にリニューアルした精度の高い新たな人間ドックセンターを5月にオープン致します。最新の医療の進歩を取り入れた様々な魅力的なオプション検診も用意し、検診後のフォローアップも万全の体制を整えておりますので是非ご利用下さい。

当院は国立研究開発法人の病院として、臨床研究中核病院となることを目指して参ります。研究所、臨床研究センター、国際医療協力局等を併設している特徴を生かし、革新的な医薬品や医療機器の研究開発、国際展開を推進し、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担って参ります。臨床研究へのご協力と、患者の皆様の血液等の生体試料や医療情報を研究に活用するバイオバンクへのご協力もお願い致します。

当院は、国内外の皆様方の疾病の克服と健康の増進への寄与の実現に向かって、邁進していく所存です。地域の医療関係者の皆様、患者の皆様のご支援・ご理解を何卒よろしくお願い申し上げます。

新任あいさつ

人間ドック副センター長

井上 博睦



このたび2016年4月1日より人間ドックセンター副センター長を拝命いたしました井上博睦(いのうえひろむ)です。

卒業後、消化器内科を専門として臨床に携わってまいりましたが、NTT東日本関東病院で勤務したのが本格的に予防医学に携わった出発点です。

検査の多数の有所見も中心課題は一つであることも多く、重要なメッセージをどう伝えるか・・・苦勞しましたが、判定表に記載するフレーズの多くを学びました。また内視鏡検査で侵襲性を下げることがどうすべきか。思い描いた理論を実践に移す場でもありました。

それでも治療内視鏡検査へ挑戦したく、さいたま市民医療センターでESDやERCPなどの数多くの治療内視鏡検査に没頭しつつ、膵臓疾患の早期診断を

目指して超音波内視鏡検査にも取り組むこともできました。治療や検査に広範囲に活動できたのは、消化器内科と健康管理科を兼務させていただいたおかげです。

そして、人間ドックとして日本最古の伝統をもつここ国際医療研究センターが、5月から新規拡充するのを機に勤務するという大変貴重な機会を頂きました。専用のスペースで検査回りが快適に完結できることを生かして、基本コースで全身評価に欠かすことのできない重要項目(甲状腺機能、尿中微量アルブミンなど)を追加、各臓器の詳細な評価に踏み込んだオプション検査も多数新設しました。

こうして関係各部署の協力を得て、より多様なニーズに応えられる体制が整いました。

もちろん、疾病構造は時代とともに変遷し、医療もやがて変化を求められるはず。意欲的なスタッフたちとともに、柔軟に対応して特色あるセンターを目指してまいります。

多数の皆さまの日々の健康に役立ててくださればと思います。

新任あいさつ

放射線核医学科診療科長

南本 亮吾



2016年5月1日付で放射線核医学科診療科長を拝命致しました南本 亮吾と申します。専門分野は放射線画像診断で、特に核医学およびPET診断を行っております。

核医学検査は「分子イメージング」の手法の一つであり、生体内の生理学的活性を画像化(機能画像)いたします。当科で行っている代表的な検査として、糖代謝を介して悪性腫瘍(早期胃がんを除く)、心疾患、脳疾患を画像化する「FDG PET/CT検査」、
「骨シンチ検査」、「心筋血流・代謝シンチ検査」、
「脳血流シンチ検査」など、対象となる疾患に合わせた核医学検査をご利用いただけます。その他、パーキンソン病を診断する「ダツスキャン検査」、神経内分泌腫瘍を診断する「オクトレオスキャン」も行っております。自費診療になりますが、「メチオニンPET検査」による脳腫瘍等の診断、「コリン

PET」による前立腺がん診断も行っております。また「FDG PET/CTを用いたがん検診」は、人間ドック部門をとおしてご依頼いただけます。核医学検査を診断する4名の医師スタッフは全て核医学専門医、PET認定医であり、臨床経験も豊富に有しております。

当科における昨年度の検査数は約5,000件であり、他院から約1,100件の検査をご紹介いただきました。核医学検査は多岐にわたる疾患の診断に対応できますが、各々の検査には必要となる前処置、検査時間等がございます。この検査の内容に関しては、当センター病院のHPから、放射線核医学科のページ <http://www.hosp.ncgm.go.jp/s037/0370.html>を参照ください。

医師、放射線診療技師、薬剤師、看護師、医療事務とチームワークを形成して日々の診療を行っており、核医学検査のご依頼や検査をお受けになる方に、安全で質の高い医療の提供を行ってまいります。どうぞ、これからも国立国際医療研究センター 放射線核医学科を宜しくお願い致します。

連携登録医のご紹介

岡崎医院

院長 岡崎 正巳 先生



診療科 内科、消化器科、外科、整形外科、健康診断、人間ドック、がん検診
 住所 新宿区早稲田鶴巻町519 岡崎ビル
 電話 03-3202-7778
 F A X 03-3203-1682
 診療時間 午前9:00~13:00 午後14:30~18:00
 休診日 第2・4水曜日、土曜日午後、日曜日、祝日
 交通 東西線 早稲田駅 徒歩3分
 ホームページ <http://okazaki-iin.webmedipr.jp/>

当院は大隈講堂のある早大正門のケヤキ通りに面し、近くには鶴巻小学校もあり、東西線『早稲田駅』より徒歩三分の場所にあります。

明治28年にこの地で初代が病院を開業し、私で四代目となります。また、初代は早稲田大学の校医をしていた関係から現在も大学の指定医療機関となっており、地域の患者さんや、早稲田大学の患者さんも多く、さまざまな病院の受診相談も受けております。

内科・外科・整形外科を標榜しております。私は消化器系を専門としていますが、ほかに整形外科、消化器科（内視鏡担当）、呼吸器科の非常勤医師が診療にあっております。

また地域医療を念頭に在宅医療にも積極的に取り組んでおり、現在10数名の訪問診療を行い、患者さんの看取りもさせていただいております。

国立国際医療研究センター病院との連携は古くからのもので、平成13年頃より、『顔の見える連携』を作るため、当時の循環器医師と各科紹介を含めた勉強会を企画し、開業医約20名と各科外来医師との交流を深めてまいりました。

この高齢社会の中、治療はもとより、生活における通院の負担を考えると地域完結型の医療体制が最も望ましいと思います。

今後もかかりつけ医として地域の患者さんの立場に立ったより良い医療環境が築けるよう、病院とのより密な連携をとり地域医療を続けてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



旬の味覚 グリーンアスパラ

グリーンアスパラガスは春先から芽が出始め、4月~6月に多く収穫されます。太陽を浴び栄養いっぱい甘味があり歯応えがよく風味も豊かなのが特徴で、特に5月頃のもの根元までやわらかいです。アスパラガスには緑色の「グリーンアスパラガス」と白色の「ホワイトアスパラガス」がありますが、この2つの違いは日光に当てて栽培するか、日光に当てずに栽培するかの違いです。

グリーンアスパラガスには、アスパラギン酸と言われるアミノ酸が豊富に含まれています。その名のとおり、アスパラガスから発見され、命名された栄養成分です。

これは、新陳代謝を促し疲労回復に作用する働きがあります。また、穂先に多く含まれるルチンには高血圧を予防する効果があります。

様々な調理方法で食べられることのできるアスパラガスをぜひ、旬の時期に味わってみてはいかがでしょうか。

管理栄養士

丸山 紗季



— メニュー — アスパラと豚肉の炒め物

○材料○(2人前)
 グリーンアスパラガス 2本
 豚肉(細切れ) 120g
 水煮たけのこ 80g
 酒 大さじ1.5
 砂糖 大さじ1
 醤油 大さじ1.5
 ニンニク(すりおろし) 1片分
 サラダ油 大さじ1
 (1人当たり：エネルギー 134kcal 塩分 2.0g)



○作り方○

- ① 豚肉を一口大に切り、酒、砂糖、醤油、すりおろしたニンニクとからめておく。
- ② グリーンアスパラはハカマをそぎ幅3cmの斜め切にし、水煮たけのこは厚さ3mm程に切る。
- ③ フライパンにサラダ油を熱し、豚肉を炒める。
- ④ 豚肉に火が通ったら、水煮たけのこことグリーンアスパラを加えて炒め合わせ、完成。

医師人事異動

採用・転入等

退職・転出等

発令日	役職名	氏名	備考	発令日	役職名	氏名	備考
H28.4.1	泌尿器科診療科長	久米 春喜	一般医師より	H28.3.31	病院長	中村 利孝	
H28.4.1	放射線治療科診療科長	中山 秀次		H28.3.31	副院長 泌尿器科診療科長	養和田 滋	
H28.4.1	第三糖尿病科医長	大杉 満		H28.3.31	膠原病科診療科長	三森 明夫	
H28.4.1	第一内分泌代謝科医長	植木 浩二郎		H28.3.31	放射線治療科診療科長	川瀬 貴嗣	
H28.4.1	人間ドック副センター長	井上 博睦	一般医師より	H28.3.31	放射線核医学科診療科長	窪田 和雄	
H28.4.1	小児科医師	吉本 優里		H28.3.31	検診統括科長	志賀 智子	
H28.4.1	外科医師	相馬 大介		H28.3.31	循環器内科医師	池田 長生	
H28.4.1	脳神経外科医師	恩田 泰光		H28.3.31	泌尿器科医師	高橋 敦子	非常勤医員へ
H28.4.1	泌尿器科医師	手島 太郎		H28.3.31	外科医師	須田 竜一郎	
H28.4.1	放射線核医学科医師	堀田 昌利		H28.3.31	麻酔科医師	古屋 美香	
H28.4.1	産婦人科医師	山澤 功二	国府台より配置換	H28.3.31	外科医師	山田 純	
H28.4.1	人間ドック科医師	林 裕子		H28.3.31	放射線治療科医師	板澤 朋子	
H28.4.1	総合診療科医師	峯 有佳		H28.3.31	外科医師	高屋 剛	
H28.5.1	放射線核医学科診療科長	南本 亮吾	一般医師より	H28.3.31	泌尿器科医師	渡辺 洋志	
H28.5.1	人間ドック科医師	橋本 真紀子		H28.3.31	耳鼻いんこう科医師	高野 真吾	非常勤医員へ
				H28.3.31	総合診療科医師	丹藤 昌治	

外来診療時間

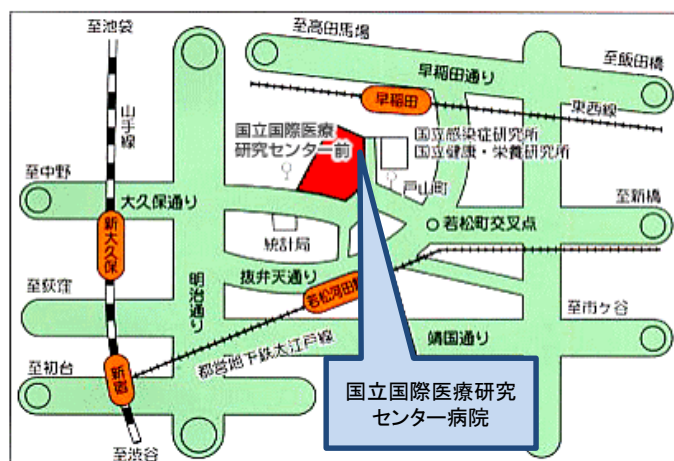
- 初診受付 紹介状が無い場合 8:30~11:00
- 紹介状がある場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」となっています。

- 休診日 土・日・祝日・年末年始

アクセス

- 都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
- 東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
- JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行 国立国際医療研究センター前 下車
- 新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行 国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人

国立国際医療研究センター病院

〒162-8655

東京都新宿区戸山1-21-1

TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

ホームページ

<http://www.ncgm.go.jp/>

